

JR 東海総合研修センターの視察について

～鉄道における安全・安定輸送の基礎となる「人材育成」の現場を知る～

■視察の実施について

交通経済研究所では、鉄道事業者における安全確保の基礎となる人材育成の実態への理解を深めることを目的として、2026年5月29日、東海旅客鉄道株式会社（以下「JR 東海」）総合研修センターを視察した。本視察では、施設内の見学及び同センター職員による説明を通じ、同社における教育・訓練の取組を把握した。



【写真】 JR 東海総合研修センター施設外観

■JR 東海総合研修センターの概要

JR 東海総合研修センターは静岡県三島市に位置する社員教育施設であり、新入社員研修のほか、乗務員（運転士・車掌）や保守要員（車両機械・施設・電気）などに対する集合研修を実施する拠点である。鉄道現場の実務に即した訓練設備や模擬装置を備えるとともに、寮生活を通じた集団教育を併せて行っている点が特徴である。

同センターは、国鉄時代から引き継がれた千種（愛知県名古屋市）及び三島（静岡県三島市）の研修施設の機能を集約し、2009年に着工、2011年に発足した。低層部に教室や訓練設備、高層部に寮室を配置した本館や、屋外グラウンドなどを備え、敷地面積は東京ドーム1個分に相当する、約4万7千平方メートルに及ぶ。最大約1,100名の研修生を同時に受け入れることが可能である。

このような基盤のもと、同社では長期雇用を前提に、社員が能力を高めながら意欲的に働き続けられるよう、人材育成制度を整備している。教育体系は「OJT (On the Job Training)」「集合研修」「自己啓発」の三本柱で構成され、社員の継続的な能力研鑽が図られている。その中で、JR 東海総合研修センターは、「集合研修」を担う役割を果たしている。

同センターの研修は、技能の習得に加え、集団生活を通じた規律・行動規範や安全意識の定着を重視している。主な研修として、新入社員研修、階層別研修、公募型研修などが実施されている。

新入社員研修は、職種や系統ごとに約2か月間実施され、「学生から社会人への意識転換」及び「JR 東海社員としての基盤構築」を目的とする。会社や業務に関する基礎知識の習得に加え、グループワークや寮生活を通じて、協調性や組織人としての基本的な行動様式を養い、将来にわたり会社生活を共にする仲間との信頼関係を構築する。階層別研修は、階層・職位の昇格に合わせたフォローアップとして実施され、公募型研修は、選考を通

過した意欲ある社員を対象に、さらなる能力向上を目的として実施されている。

また、同センターは法律に基づく「動力車操縦者養成所」として指定されており、運転士（新幹線・在来線）の養成も行っている。

これらの研修などを通じて、社員の成長段階に応じた実践的な教育を担い、安全かつ安定した鉄道運行を支えている。

■JR 東海総合研修センターの取組

JR 東海総合研修センターでは、安全への基本姿勢を基盤に、多様な環境の変化や新技術に対応した取組が進められている。

（1）「安全最優先」の人材を育む

鉄道の安全・安定輸送の原点となる、安全意識の醸成に向けた教育が実施されている。

その根底には、国鉄時代の 1951 年に発生した京浜東北線桜木町駅事故を契機として制定された「安全綱領」がある。同綱領は、鉄道人に求められる安全に対する基本的な心構えと道義的責任を示したものであり、各教室に掲示されるとともに、職種や系統を問わず研修カリキュラムの中で安全の基礎として教育されている。

（2）多様な人材が活躍できる研修のあり方の検討

十分な教育・訓練を確保する観点から、宿泊を伴う長期研修が多く実施されてきた。一方で、こうした研修形態は、ライフスタイルやライフステージの違いによって参加が難しい社員が一定数存在するという課題もあった。このため、多様な人材の活躍を支援する観点から、リモート講義や LMS（学習管理システム）を活用し、宿泊期間を従来より短縮した形で受講可能な研修の導入を進めている。これにより、勤務時間などの制約を抱える社員を含め、より幅広い層に研修機会を提供できるようになったとされる。

（3）現場のニーズを反映する仕組みの整備

教育・訓練内容の整備にあたっては、現業機関における実務と乖離しないことを重視し、その適合性を維持するための改善が継続的に実施されている。具体的には、研修後のアンケートを通じて、教育内容と実務とのずれを把握し、見直しに反映している。

さらに、現場で培われた知見や工夫を教育に取り込む取組も進められている。例えば、在来線運転士向けのシミュレーター装置では、前方確認の状況を可視化する仕組みが導入された。在来線の運転では前方注視が不可欠であるが、その実施状況は本人・指導側ともに把握が難しい側面があった。この課題に対応するため、視線の動きを検知・記録し、解析するツールが活用されている。なお、同ツールは、現業機関の在来線運転士向けのシミュレーター装置にも導入され、運転士の教育・訓練に活用されている。



【写真】視察にて、在来線運転士シミュレーター装置に導入された「視線検知機能」について講師の説明を受ける様子

JR 東海総合研修センターにおけるこれらの取組は、安全かつ安定した鉄道運行を支える重要な基盤である。本視察を通じて、現場の技術力を高める教育の仕組みや、社員の安全意識を醸成する取組について理解を深めることができた。当研究所としては、今後、こうした知見を鉄道事業者の人材育成のあり方に関する検討などに活かしていきたい。

最後に、本視察の受入れ及びご説明にご協力いただいた JR 東海総合研修センターの皆様へ、ここに記して感謝申し上げます。